

6 第6学年の取組

(1) 実践内容「ふるさと甚目寺 ～われら歴史・文化調査隊～」

① はじめに

6年生は、「ふるさと甚目寺」の地域学習の総まとめとして、甚目寺地区の歴史・文化を教材としてESD活動に取り組んでいる。地域の歴史・文化を知ることが、生まれ育ったふるさとを見つめ直すことにつながると考える。

本年度は、人とのかかわり合いを大切に活動を中心に他教科との連携を図りながら、学級・学年の仲間との人間関係づくりを重視したコミュニケーションスキルの習得や、すべての子どもの「わかる・できる」をめざした授業の視覚化・焦点化の実践を進めてきた。そのためにシンキングツールの効果的な活用についても考えてきた。

② 「ふるさと甚目寺 ～われら歴史・文化調査隊～」

ア コミュニケーション力を育てる活動

ESD国語科「町のよさを伝えるパンフレットを作ろう」

修学旅行では、「わくわくマイプランイン京都」をテーマに、自分たちで立てた京都分散計画の行き先について調べ、シルバークガイドの方の説明を聞きながら、京都の町を巡り、歴史に深く触れる機会をもつことができた。その興味は「ふるさと甚目寺」の守るべき歴史や文化に目を向け、考えるきっかけとなり、6年生の総合学習につなげることができた。

また、来年の6年生のために、京都・奈良について学んだことをパンフレットにまとめることにした。どのようなパンフレットにしたいのか構想を練り、取り上げる題材について、ウェビングマップを活用して視覚化し、ブレインストーミングを行った。互いの意見を出し合い、交流を深めていく活動は、「見て、聞いて、触れて、甚目寺②～甚目寺の歴史・文化をまとめよう～」（総合）での話し合い活動で必要になってくると考えた。また、多くの情報の中で取捨選択して、目的に合った材料を選ぶ力を養うことにもなると考えた。



【ウェビングマップを活用して
ブレインストーミングを行う様子】

イ 多面的・総合的に考える力を育てる活動

(ア) ESD社会科「今に伝わる室町の文化と人々の暮らし」

修学旅行で訪れた金閣・銀閣に焦点をあて、二つの建物の特徴を付箋に書き出させた後、グループで意見を出し合いながら、ベン図を使って整理していった。友達の考えを知ることによって、様々な視点から物事を考える力がつくと考えた。また、ベン図を利用して二つの建物の特徴を整理・分類することで、それぞれの建物の相違点を視覚的に分かりやすく確認できた。また学級全体で大きなベン図をつかって、確認し合うことで情報の共有化ができた。

「見て、聞いて、触れて、甚目寺①～甚目寺の歴史・文化を知ろう～」では、自分たちが住んでいる地域にまつわる歴史的・文化的遺産の存在を知ることにより、地域の歴史に興味をもち、さらに調べようとする意欲を高めることをねらいとしている。甚目寺地域の歴史的・文化的遺産の出前授業を受けたり、取材活動を行ったりする中で、有名な金閣・銀閣と同じ時代に建てられた建造物が甚目寺にもあることを知れば、意欲をもって学習に臨むことができると考えた。さらに得た情報を付箋に書き出し、意見交流をすることで、様々な視点から考える姿勢につながると考えた。

10月に行ったミニ発表会では、取材活動でまとめたことを元に情報交換を行い、良かった点を認め合い、資料の足りない部分をアドバイスし合うことができた。

(イ) 特別活動「ほめ言葉のシャワー」－通年活動－

「ほめ言葉のシャワー」を学年全体で取り組んだことで、学年目標「認め合い、高め合い」の通り、学級の隔たりなく互いの個性や存在を認め合い、だれとでもよりよい人間関係を築くことができた。主役となった児童の行動を注意深く観察し、帰りの会のほめ言葉タイムでは主役児童に伝えることに変わりはないが、29年度年は漢字一字で表現させた。選んだ漢字は同じでも、その理由はさまざまであることに発表を通して気付くことができ



【ベン図を使った板書】

た。ほめ言葉は、多様な見方や考え方に触れる良い機会でもあると考える。主役児童からは、友達からの温かい言葉がけが自信となり、次は自分が友達の良い点に目を向け、励ましたいという言葉が多く聞く。自己肯定感の低い児童も、その日はとても良い表情をしていた。今後も、「ほめ言葉のシャワー」を通して、観察力を鍛え、様々な視点から考えをまとめる力を養うことができると考えている。(参考 「ほめ言葉のシャワー」とは、教諭菊池省三先生が行っている取組である。)

ウ つながりを尊重する態度を育てる活動

(ア) ESD道徳「元気になる方法」(勤労・社会奉仕)

学校生活においては最高学年という立場から、誰かのために行動する機会が増えてきている児童に、人を元気にするにはまず自分が元気であることを伝えた。人を幸せにする方法をいくつか提示し、クラスの仲間を幸せにする方法を付箋に書き出し、グループでの話し合い活動を通して互いの意見を尊重し合い認め合いながら分類していく中で、甚目寺小の仲間を幸せにする方法をまとめた。話し合い活動を行う中で、互いの意見を尊重し合い、実践的な行動力を養うきっかけになったと考えている。

(イ) ESD道徳「空白のカルテーハンセン病と小笠原登博士」(公正・公平・正義)

7月の出前授業では、小笠原登博士の功績を知った。その上で忘れてはならないのがハンセン病についての理解である。始めにハンセン病患者が当時おかれていた現状を知るとともに、もしその状況に自分があったとしたらどんな選択をするか考えさせた。その上で自分の意思を貫き通して多くの命を救った小笠原登博士の思いをクラゲチャート図を使って想像させた。博士の行動は誰のためのものであったのかを話し合うことで、一人一人の命はかけがえのないものであり、何人にも侵されることのないものであることや、博士の行動には、勇気と覚悟が必要であったことを確認した。そして、今後の自分たちにできることを考えさせた。事後の感想には、「ハンセン病の問題を多くの人に伝えることが自分たちにできること」や「小笠原博士の功績をもっといろいろな人に知ってほしい」など書かれていた。特に「ハンセン病と小笠原登博士」をテーマに選んだグループは、発表に向けて「ふるさと甚目寺」の一員として、ふるさとのよさを伝えていこうとする気持ちが強くなったようであった。



【空白のカルテの授業
クラゲチャートの利用】

また、「見て、聞いて、触れて、甚目寺②～甚目寺の歴史・文化をまとめよう～」での話し合い活動や発表会準備に役立てることができた。興味を引かれるタイトルを考え、発表の中心となるテーマを設定し、情報を整理・活用し、誰もが見やすく、わかりやすい発表を目指して、パワーポイントや提示するための写真・図・フラッシュカードなどの効果的な使い方を工夫した。また、「ふるさと甚目寺」の未来についてできることを考え、発表会の中に取り入れた。取材先でお世話になった方にも招待状を送り、お世話になった方々や保護者に向けて調べたことを発表した。



【発表会の様子】

③ ESD道徳 主題「みんなのために」(遵守、公德心、郷土愛)

1月からは、「われら甚目寺広め隊！」として、甚目寺のためにできることを考え話し合い、実行に移そうと努力し、実行することを目指した。本主題は、地域社会の一員としての公德心をもち、進んで地域のために尽くそうとする気持ちを高めることがねらいであり、進んで参加する態度を育てることもつながると考えた。

ア 導入の様子

本資料では、ゴミの回収場所を巡って主人公が悩む場面が出てくる。最初にゴミが積み上げられた写真やカラスによってゴミが荒らされている写真を見せて、もし自分の家の近くがこの状況であったらどう思うか想像させて、本主題へとつなげていった。

イ 展開の様子

資料の内容を視覚化し理解しやすくするため、フラッシュカードを使ってポイントとなる事柄を黒板に貼りながら範読した。その際、黒板を上下に分け、主人公と夫妻の行動を時系列に沿って板書することで、主人公が変化していく様子を捉えやすくした。本時のねらいにせまる学習活動として、自分の家の前をごみ回収場所として提供し、ごみ回収後の後始末などを行っている夫妻

の姿を見た主人公が、ごみの整理の世話を手伝うようになった理由を考えさせた。始めに個人で考え、その後グループで話し合い活動を行った。互いの考えを認め合いながら、活発に話し合う様子が見られた。「夫妻の行動に心が動かされたから」「自分が協力すれば、近所の人もルールを守ってくれると思ったから」など主人公の心の変化に迫る意見が出ていた。それらを板書して視覚化したことで、学級全体での共有が図れた。みんなのためにとった行動が周りの人の心を動かし、自ら進んで行動する態度につながることを確かめた。



【話し合い活動の様子】

ウ 終末の様子と児童の感想

総合で学んだ甚目寺の歴史や文化を生かして地域のためにできることを考えさせた。児童からは、「甚目寺の歴史や文化についてのパンフレットを作って駅などに置かせてもらう」「甚目寺の歴史を残していくために、伝統的な行事にできるだけ参加する」などの意見が出された。今後の総合学習の話し合い活動や実践に生かし、甚目寺のために必要だと思うことを進んで行おうと呼びかけてまとめとした。授業後の感想では、「夫妻のように行動によって人の心を動かせる人間になりたい」「甚目寺のためにできることを積極的にやりたい」など、自ら進んで行動しようとする気持ちの高まりを感じさせるものが多く見られた。

④ 「われら甚目寺広め隊！～甚目寺の歴史・文化を広めよう～」

進んで参加する態度を育てる活動

ア ESD特別活動「甚目寺観音をきれいにしよう」

地域に伝わる伝統行事の体験を通して、「ふるさと甚目寺」のよさを再確認し、そこに住む一人としての自覚と誇りを高めるとともに、ふるさとを大切に思う気持ちを育てるためにできることは何かと考え、節分でお世話になる甚目寺観音をきれいにすることにした。一生懸命掃除することが、今の自分たちにできると自覚して掃除を行うことができた。また、その後、節分の話を聞き、豆まきの掛け声の練習を行った。豆まきに向けての気持ちを高めることができた。



【甚目寺観音の清掃】

イ ESD特別活動「甚目寺観音節分会の豆まきに参加しよう」

2月3日、甚目寺観音節分会の豆まきに参加した。休日の朝早い時間ではあったが、90名以上が参加し、元気よく豆まきを行うことができた。

ウ ESD総合「あま市ものしり検定に挑戦しよう」

あま市ものしり検定のための講義を美和歴史民俗資料館の学芸員の方に学校に来ていただいて行った。あま市ものしり読本ジュニア版を購入して、熱心に書き込みをしながら話を聞く児童もおり、後日学校にて行ったものしり検定でもよい成績を収めることができた。また、ものしり検定ジュニア選手権に参加する児童もいて甚目寺だけでなく、あま市全体の歴史や文化にも興味をもつことができたようであった。



【ものしり検定
出前授業】

エ ESD総合「ふるさと甚目寺でまとめたことを発信しよう」

今まで調べてきたことを地域に発信するためにポスターにまとめ、あま市の公共施設（甚目寺公民館・七宝産業会館・美和文化会館）に協力を得て、展示させていただいた。その後、美和図書館に数ヶ月にわたり展示をしていただいたことで、多くの方に甚目寺の歴史文化について知っていただくことができた。また、甚目寺の歴史文化についてパンフレットにまとめた。これらは、6年生の総合学習のきっかけづくりの参考資料として5年生に預けた。

(2) 実践の成果と課題

総合の学習を通して、様々な視点から関連付けて考えをまとめることで多面的・総合的に考える力が、発表に向けての話し合い活動を充実させる中でお互いの考えを尊重し合うことのできる態度が児童の中に育ってきているが、つながるという点では、やや一方的であることは否めない。甚目寺地域の歴史や文化を守るために、情報発信に対する反応についても受け止め、より高め合える活動を考えていかなければならないと考える。